

J A 自己改革推進レポートについて

令和6年5月27日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

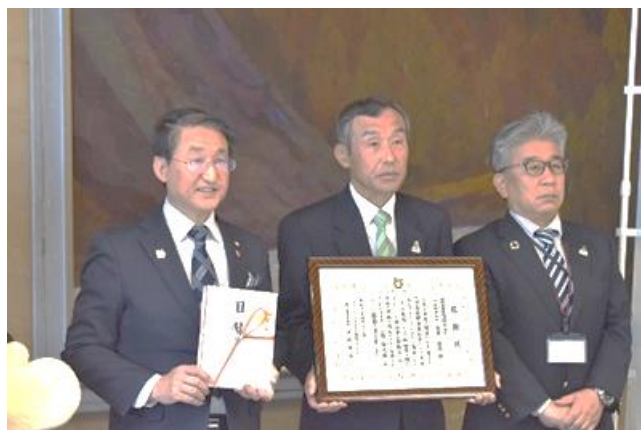
(1) J A グループ鳥取の取り組み

①「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」へ協賛金を寄付

令和6年10月19日から4日間、県内で開かれる「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」を控え、J A グループ鳥取が大会実行委員会へ協賛金を寄付したことに対し、4月12日、平井鳥取県知事から感謝状が手渡された。

J A グループ鳥取を代表し感謝状を受け取った J A 鳥取県中央会の栗原隆政会長は「食や農業、地域を担う J A グループ鳥取が参画し大会を盛り上げたい。食パラダイス鳥取県などと連携し、県内の農畜産物を P R したい」と話した。平井鳥取県知事からは「食パラダイス鳥取県のファンになってもらえるよいきっかけとなる。J A グループの協力は心強い」と謝辞をいただいた。

J A グループ鳥取は、10月から始まる「国消国産月間」と連携し、県産食材の提供や大会のサポートを通じ、選手を応援する。



②第4回「食パラダイス鳥取県みらい宣言」

J A グループ鳥取は4月17日、倉吉市の J A 研修所で J A グループトップ広報「食パラダイス鳥取県みらい宣言」を開催した。食料・農業・農村基本法の改正を見据え、4月上旬に訪問した担い手3人の生の声をはじめ、直近の農業情勢などを発信。また、4月11日に初出荷を迎えた J A 鳥取中央特産の大原トマトの選果場や同生産組合の牧野文徳組合長に協力していただき、生産現場を視察した。

J A 鳥取県中央会の栗原隆政会長、J A とっとり女性協議会の福井満寿美会長、報道機関7社が参加。福井会長は、地域の活性化や次世代のリーダー育成に向けた魅力ある女性会の活動を紹介。栗原会長は「生産者の苦勞と喜びや農業生産のやりがいなどを県民に向けて積極的に発信し、消費者への理解醸成や行動変容につなげたい」と話した。



(2) 大山乳業農業協同組合の取り組み

白バラプレミアム ブルーベリー&クリームチーズが農林水産大臣賞を受賞

大山乳業農協が販売するアイスクリーム「白バラプレミアム ブルーベリー&クリームチーズ」が、「令和5年度優良ふるさと食品中央コンクール」の国産畜水産品利用部門で農林水産大臣賞を受賞した。同コンクールは、全国各地で生産されている地域色豊かな「ふるさと食品」の中で、製造・加工に関する新技術等による品質の向上及び地域で生産される農林水産物の加工利用の面で特に優れた成果をあげた食品に対して賞を授与するもの。3月4日に東京都千代田区の「如水会館」で行われた表彰式には小前組合長が出席した。

3月28日には平井鳥取県知事を訪問し、受賞の報告を行った。平井鳥取県知事からは「さすが農林水産大臣賞を受賞した味。みるく(魅力)溢れるアイス」と得意のダジャレを交えた感想をいただいた。4月3日には商品開発に参画いただいた団体の皆さまを同組合に招き、受賞を受けての思いや、今後の取り組みに向けての意見交換を行い、有意義な時間となった。



(3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

「京都生協コープ・ファンミーティング」に参加

鳥取県畜産農協は4月13日、京都市の「みやこめっせ」で開催された「第25回京都生協コープ・ファンミーティング」に参加した。

この催しは生協の商品の良さや産直のこだわりについて生協の組合員にさらに知っていただくことを目的として年に1回開催されており、商品を交えて生協の組合員と直接交流する場となっている。今回は生協の新人職員に協力いただき、産直鳥取牛のしゃぶしゃぶの試食を行った。産直鳥取牛の美味しさや鳥取県畜産農協の取り組み等についても直接アピールする事ができた。



(4) JA全農とつとりの取り組み

①「二十世紀梨の親木」切り株標本引き渡し式を開催

全農とつとりは3月12日、鳥取二十世紀梨記念館で「『二十世紀梨の親木』切り株標本引き渡し式」を開催した。

二十世紀梨の3本の親木のうち、2018年に枯死してしまった1本を切り株の標本として保存し、同会沢登副本部長から鳥取二十世紀梨記念館の佐藤館長に引き渡された。

今後は、多くの方に二十世紀梨の歴史を見ていただけるよう、二十世紀梨記念館内で展示し、鳥取の梨生産の歴史を後世に伝えていく。



②農畜産物の販売価格への転嫁について広く消費者の理解を求める新聞広告を掲載

全農は、消費者に対する生産コスト上昇分の価格転嫁理解情勢に関する広告を、昨年引き続き3月25日に全国5大紙（読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・日本経済新聞・産経新聞）、26日に日本海新聞、日本農業新聞に掲載した。

広告は、農畜産物の生産コスト上昇に対して、農畜産物の販売価格に転嫁できるよう、広く消費者・事業者へ現状への正しい認識と共感を促し、理解・容認する雰囲気醸成することを目的とするもの。

今回は全農オフィシャルアンバサダーの石川佳純さんを起用し、国産農畜産物の消費拡大に加えて、農産物の適正価格について「ともに考えよう」というメッセージを添えた。

(5) JA鳥取信連の取り組み

担い手コンサルティングの取り組みについて

JA鳥取信連は、JAの担い手コンサルティングの取り組みを支援しており、令和3～4年度において6先実施している。

この取り組みは、JA・信連・農中等でコンサルチームを組成し、担い手との対話等により、経営課題を洗い出し、課題解決策を提案するものである。

令和5年度は、これまでの取組経緯を踏まえ、担い手とコンサルチーム双方の負担感に配慮し、財務分析および品目別収支分析を中心とした「鳥取県版担い手コンサルティング」に取り組むこととした。「鳥取県版担い手コンサルティング」は、令和5年度下期に3先実施しており、取組内容について検証を行いながら、令和6年度もJAの取り組みを継続支援していく。

(6) J A 共済連鳥取の取り組み

公立鳥取環境大学、鳥取大学へ「星空舞」を寄贈

J A 共済連鳥取は4月11日に公立鳥取環境大学、17日に鳥取大学へ「星空舞」合計1,200袋(1袋2kg)を寄贈した。J Aのブランドイメージ向上や県産米のPRを図り、消費拡大に繋げるために行うもの。

各大学の寄贈式において、公立鳥取環境大学の小林学長より「地球温暖化が進行する中、高温に強いお米ということで、意義深いものを寄贈いただき感謝する。」、鳥取大学の中島学長より「エネルギー価格高騰、円安による物価高の状況下において、学生生活の助けとなるとともに、多くの学生が鳥取県の農業に関心を持つきっかけとなる取り組みに感謝する。」とそれぞれ謝辞を述べられた。

寄贈先の学生からは「食事は日々の学生生活を全力で取り組むにあたっての大切なエネルギー。寄贈いただいた『星空舞』のようにこれからも強く輝く充実した毎日を送っていきます。」と喜びの声をいただいた。

これからも、地域の発展・農業振興に役立つような地域貢献活動を行っていく。



以上